

日々輝学園高等学校だより

＝平成30年9月3日発行＝

- (1) 「わかる・できる」という実感を大切に、「学ぶ力」を高めます。
- (2) 組織的・多角的なメンタルサポートで、「心の力」を引き出します。
- (3) さまざまな体験学習を通して、「社会とかかわる力」を培います。
- (4) 多様な進路指導を展開し、主体的に進路を選択する態度・能力を養います。

横浜校校長 森田 真 〒224-0041 横浜市都筑区仲町台 1-10-18 TEL(045)945-3778

Hp: <http://www.hibiki-gakuen.ed.jp> Email: yokohama@hibiki-gakuen.ed.jp

バドミントン部の清水さん、

神奈川県選抜チームの一員として

全国大会で優勝しました！

8月16日から19日の期間に、小田原アリーナでバドミントンの通信制定時制高等学校の全国大会が行われました。

我が校の清水美帆さん(2D)は、神奈川県の選抜Aチームの一員として参加しましたが、見事に全国大会優勝という快挙を成し遂げました。

清水さんは、チームのダブルスの一人でしたが、2回戦から準決勝・決勝までを含む5回のゲーム全てをストレート勝ちで勝利しました。ダブルスは、団体戦の先鋒の役割を担っていますので、まさにチームの牽引車としての重責をやり遂げたと言えるでしょう。

大きな声でみんなを励ましなが、最後まで積極的なプレーで盛り上げて勝利に貢献した清水さんに大きな拍手を送りたいと思います。

なお、一緒に出場する予定であった木村杏さん(2D)は、大会直前の神奈川県チームの合同練習で足に大きな怪我を負ってしまい、出場がかなわなくなりました。木村さんは、昨年度も全国大会に出場していましたので、全国大会に出場をしていたなら、優勝に絡むような活躍をきっとしていたことと思います。たいへん残念ですが、ゆっくりとそして、しっかりと怪我を癒して来年を期していただきたいと切に願います。

全国大会には、陸上部の7名も出場して大活躍をしました。

長嶺多香来さん(3A) 400M、800M 出場

山口 祐輝さん(3B) 3000M 出場

小川原一樹さん(3E) 4×100M リレー4位、200M 準決勝出場

青木虎太郎さん(2B) 3000MSC 出場

大井 郁乃さん(2D) 走り幅跳び5位

春日 也樹さん(2E) 400MH 出場

白井 翔太さん(1D) 4×100M リレー4位、100M 出場

今年のまれにみる酷暑の中、みんな頑張りました。本当にお疲れさまでした！

● インターシップ（8/1～3）の様子

《ペットホテル》



《仲町台地区センター》



《美容院》



《歯科医院》



● よのなか学習講座（8/20）の様子

《ジャズダンス講座》



《看護師の仕事》



《ボクシング講座》



《バスガイドの仕事》





● 「相談室だより」から

夏休みが明けました。8月終わりから少しずつ生徒のみなさんの顔を学校で見られるようになり、嬉しく感じていましたが、みなさんはどんな気分で2学期を迎えたのでしょうか。

夏休み中、大きな出来事はなかったでしょうか。もし何か気がかりなことがあったら、先生方やカウンセラーに知らせてくださいね。

《友だちとおしゃべりをするときのコツ》

久しぶりに顔を合わせる人たちと、何をどう話したらよいか、戸惑うことはありませんか？
日がたつにつれて、あるいは花冠祭の準備が進んでいくにつれて、自然と学校内の話題が増えていくと思いますが、今この時期に少し困っている人は、以下のコツを参考にしてくださいね。

最初は挨拶から

「おはよう、〇〇さん」のように、挨拶の前後に相手の名前を言うと、誰に対して話しかけているのかが分かって相手も返事をしやすくなります。

話題を選ぼう

多くの人にとって話しやすいことを話題にすることや、夏休みのことを話題にするのも今の時期は良いですね。

- ◎天気や気候についての話題
- ◎お互いに目に見えているもの（持ち物など） 「その〇〇、いいね」
- ◎自分も相手も同じように体験していること（学校にまつわること） 「夏休みの宿題、終わった？」
- ◎夏休み（週末休み）の出来事「夏休み、何してた？」

相手が楽しくなる話の聞き方をしよう

話の聞き方が上手だと、話をする側は、気分よく話をすることができます。次の3つのポイントに気をつけながら、相手の話を聞いてみましょう。

- ① 相手の顔を見てしっかり聞く。
- ② 相づちを打ったり、驚いたり、笑ったり、表情豊かに聞く。
- ③ 相手の言葉を繰り返したり、質問を入れてみたりする。

最後の一言で、次のおしゃべりにつなげよう

自分とのおしゃべりを相手はどう思っているのかな？なんて、相手の反応が気になるころですが、話していた相手も同じように気にしています。

「楽しかった」「ありがとう」「また話そうね」など、自分が相手ともっと話したいと思っていることを伝えられると良いですね。